

4. 子ども読書活動推進計画

「豊中市子育て支援行動計画 こどもすこやか育みプラン・とよなか」に「豊中市子ども読書活動推進計画」の理念が盛り込まれていることから、子どもの読書環境を整え見守るしくみとして、平成27年度より新たに「子ども読書活動連絡会」を立ち上げた。

各図書館による保育施設への訪問等を通じて、未就学児の読書環境についての聞き取り調査をおこなうなど地域の情報収集につとめ、各施設の状況や要望を知る機会となった。要望に応じておはなし会に出向いた事例や、ボランティアにつないだ事例など実施可能なサービスに取組み、これらの結果を「子ども読書活動連絡会」で報告した。

今後は、家庭保育所・認可外保育所にむけての長期貸出サービスや、様々な状況により読書をするのが困難な子どもたちの読書環境整備に力を入れていく。また、1歳6か月児健康診査で配布している「とよなかこども読書マップ」も継続して作成・配布するなど、引きつづき、関係部局・施設・団体・市民と連携しながら、「子ども読書活動連絡会」の協力体制を元にすすめていく。

5. 事業報告

◆地域の課題解決を支援するサービス

図書館では平成23年度より、市民生活のうえで特に関心の高い課題として「医療・健康情報」「多文化共生」「ビジネス・就労」「子育て・DV（ドメスティック・バイオレンス）」の4つのテーマを設定している。岡町・庄内・千里・野畑の各図書館で各テーマに沿った資料・情報を収集し、また関係部局・機関と連携した取組みをすすめている。

27年度は新たに、「とよなか産業フェア」で産業振興課やとよなか起業・チャレンジセンターとともに「ビジネス・就労」関連の過去の講座や連携による取組みの様子を展示した。テーマごとの取組みについては表にまとめた。



日本語・イタリア語のおはなし会（多文化共生）



医療健康情報レクチャー（医療・健康情報）

| 各テーマごとの取組み（協働事業を除く） | |
|---------------------|---|
| 医療・健康情報 | <p><講座> 医療健康情報レクチャー（「救急医療を知ろう～集中治療室の現場から～」他、岡町図書館・高川図書館にて3回、市立豊中病院と連携）</p> <p><関連資料の出張展示・貸出> 健康カレッジ（中部保健センターにて5回、健康増進課主催） 市民健康づくりフォーラム（中部保健センターにて、健康増進課主催） 豊中市保健所主催の講座（豊中市保健所・すてっぷホールにて7回）</p> <p><医療健康情報支援サービスのPR> とよなか市民健康展（中央公民館・アクア文化ホールにて、市医師会・歯科医師会・薬剤師会主催）</p> |
| ビジネス・就労 | <p><講座> ビジネスゼミナール（Bゼミ）（「カリスマ人気ブロガーが語るはやっているお店の共通点」他、千里図書館・岡町図書館にて4回、産業振興課と共催）</p> <p><関連資料の出張展示・貸出> 経営セミナー・起業セミナー（とよなか起業・チャレンジセンターにて19回、産業振興課主催）</p> <p><ビジネス・就労支援サービスのPR> とよなか産業フェア（千里文化センターにて、産業振興課主催）</p> |
| 多文化共生 | <p>「声を出して読みましょう。聞いて楽しむための本」（日本語・イタリア語によるおはなし会、千里図書館にて、イタリア文化会館と連携）</p> |
| 子育て・DV | <p>はぐくみホーム説明会（野畑図書館にて2回、特定非営利活動法人キアアセットと連携） 豊子連ふれあい講座&野畑図書館子育てセミナー（「誕生学ってなあに」他、野畑図書館にて2回、豊中子ども文庫連絡会・kei おばさんの本の部屋と連携）</p> |

◆レファレンスサービス

市民が抱く日常のさまざまな疑問・課題の解決のため、資料・情報の提供や、関連機関・相談窓口・専門家の紹介等のサポートをおこなっている。Web サイト・来館・電話・FAX で受付し、昭和44年から専任職員を配置して得た事例の蓄積と、地域の課題解決支援の中で得た連携先とのつながりを活かして、個々の事情に合わせたサービスにつとめている。

事例の一部は国立国会図書館のレファレンス協同データベースを活用して公開している。また豊中関連の事例等を「調査事例紹介ポスター・チラシ」で掲示し、調査で得た職員のノウハウを、調べ方ガイド「検索なび」に反映するなど、図書館の新たな活用法を知る機会としている。

レファレンス協同データベースで豊中市が公開した事例には平成 27 年 1 年間で 745,905 件のアクセスがあり、全参加館中 6 位、市町村立図書館の中では最多で、国立国会図書館からは 4 年連続で礼状が授与された。事例を公開することで、他の参加館からの情報提供も受けることができ、これまで未解決だった調査の回答が得られるなど、レファレンスの精度も高まった。

今後も人材育成のための研修への参加や職員間の情報共有をすすめることで、サービスの向上につとめる。

平成 27 年レファレンス協同データベース被参照数件数（アクセス数）上位 10 館

* 累積登録点数・年間登録点数は国立国会図書館定義による

| | 図書館名 | 累積登録点数 | 年間登録点数 | 被参照数件数 |
|----|----------------|--------------|------------|----------------|
| 1 | 埼玉県立久喜図書館 | 27,036 | 1,074 | 3,401,700 |
| 2 | 香川県立図書館 | 17,138 | 1,531 | 2,355,007 |
| 3 | 近畿大学中央図書館 | 20,737 | 260 | 1,940,820 |
| 4 | 岡山県立図書館 | 6,916 | 567 | 1,280,048 |
| 5 | 大阪府立中央図書館 | 7,439 | 431 | 781,634 |
| 6 | 豊中市立図書館 | 4,322 | 733 | 745,905 |
| 7 | 福井県立図書館 | 16,130 | 496 | 653,952 |
| 8 | 大阪市立中央図書館 | 3,574 | 206 | 611,467 |
| 9 | 滋賀県立図書館 | 14,155 | 198 | 528,514 |
| 10 | 島根県立図書館 | 2,795 | 258 | 526,477 |

国立国会図書館 Web サイト「平成 27 年度 国立国会図書館長からの御礼状送付」より

http://crd.ndl.go.jp/jp/library/thanks_H27.html

◆個人貸出サービス

<貸出室・一般図書コーナー>

平成 27 年度の登録率は 39.2%。個人有効登録者数は、154,269 人とほぼ横ばいである。継続貸出を除いた成人書の個人貸出冊数は 1,961,600 冊（1.8%増）、15 歳以上の個人貸出人数は 865,178 人（8.7%増）となり、昨年度同様増加傾向にある。40 歳以上の利用人数が引き続き増加し、10 代後半～30 代の利用もやや上向きとなった。

リクエストは、個人予約計 736,013 件（7.8%増）。成人書の予約数が伸びたものの、CD 等の AV 資料の予約数はやや減少した。しかし、児童の利用も含めた図書以外の資料（雑誌・AV 資料等）の個人貸出点数は 356,380 点（11.2%増）で、特に CD の貸出点数の伸びが著しい。27 年 5 月より CD の貸出点数を 4 点にした影響と考えられる。

27 年度はトピックスに示したような新しい連携の取組みや、ICT を活用したサービスの導入をおこなった。その他、Web サイトの雑誌一覧にジャンル別区分を追加するなど細かなサービス改善にもつとめた。こうした成果が貸出増につながったものと思われる。千里地域においては、住宅の立替えによる新規登録者の増加にともない、新しい利用者層が増えてきていることも要因としてあげられる。

＜こども室・児童書コーナー＞

継続貸出を除いた平成 27 年度の児童書の個人貸出冊数は 1,076,030 冊（6.8%増）、14 歳以下の個人貸出人数は 164,041 人（12.7%増）で大きく増加した。8 歳以下の利用人数は引き続き増加、近年伸び悩んでいた 9 歳～14 歳の利用人数も上向いている。合わせて児童書の個人予約が伸びており、ことに Web・OPAC からの予約の増加が著しい。各種メディアを使いこなすなかで図書館資料の活用も市民の選択肢に入ってきたことがうかがえる。



東豊中図書館での連携事業「みんなでは・は・は」

子ども読書活動推進計画に基づく取組みは 27 年度新たな局面に入った。またこれまでの成果により、千里図書館が子どもの読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受けている。積み重ねてきた取組み・新規の取組みを総合的に子育て・子育て応援事業として見直しつつ、地域の中での連携を深めてきたことが、貸出増につながったと考えられる。

◆ヤングアダルト（YA）サービス

平成 27 年度の YA 世代（おおむね 12～18 歳）の年齢別個人有効登録者数は、前年度比で 12 歳～17 歳は横ばい、18 歳～21 歳は 10%減少。一方、年齢別貸出人数は、どの年代も 10%以上増加している。

新たな取組みとしては、選挙管理委員会・市民活動情報サロン・中央公民館等と連携し、「18 歳選挙権」に関する取組みやボランティア・授業の成果発表等、高校生・大学生が図書館で社会参加する機会を増やした。加えて、学校図書館だよりに公共図書館発信の記事を掲載する小中学校が増え、また千里図書館では YA らぼ（YA ボランティアグループ）が「YA! BOOKS 通信」の紙面づくりをおこなうなど、情報発信面での取組みをすすめた。今後も異世代・同世代との交流が広がる場づくりをつづけていきたい。

| 各館での取組み | |
|---------|---|
| 岡 町 | 高校生・大学生のためのボランティア講座、豊中高等学校へ絵本出前講座と資料提供、豊中高等学校絵本 POP、第一中学校・第三中学校作品展示、風野潮巡回展示 |
| 庄 内 | 「しゅくだいおうえんだん」、市民活動情報サロンを通した高校生ボランティア、第十中学校図書委員おすすめ本、職場体験学習おすすめ本 POP |
| 千 里 | 市内高等学校への学校訪問、ふゆのおたのしみ会（YA らぼ企画・実施） 豊中高等学校絵本 POP、職場体験学習おすすめ本 POP、風野潮巡回展示 千里青雲高等学校図書委員・「YA らぼ」おすすめ本 POP（コラボまつり期間） |
| 野 畑 | 特別支援学校の職場体験実習、市民活動情報サロンを通した高校生ボランティア 学校司書のおすすめ本 POP 展示、職場体験学習おすすめ本 POP、第二中学校・ 第十四中学校調べ学習の成果発表の掲示物と参考図書の展示 |

| | |
|-----|---|
| 東豊中 | 豊中高等学校絵本 POP、職場体験学習おすすめ本 POP、豊中市立図書館 70 周年企画「70p（ページ）まつり」参加作品展示 図書館 70 周年、70 ページでお祝いを」参加作品 |
| 服部 | 第四中学校調べ学習、第十六中学校調べ学習・読書記録・図書委員による寺内小 おはなし会記録、服部地域の学校図書館紹介（小学校と合同展示） |
| 高川 | 「紙芝居ボランティア」、豊中高等学校絵本 POP、職場体験学習おすすめ本 POP、 風野潮巡回展示 |
| 蛭池 | 「Shabe-ri 場（しゃべりば）」、豊中高等学校絵本 POP、学校図書館の活動紹介と 作品展示、風野潮巡回展示 |

◆高齢者サービス

高齢者を対象としたサービスとして、老人憩いの家などへの団体貸出をおこなっている。一方で資料管理が施設の負担となる場合もあることから、団体リサイクルの対象を広げ、平成 26 年度から庄内図書館で豊中市全域の高齢者施設に団体リサイクルの利用を呼びかけている。27 年度は 17 施設が参加し 1,148 冊の利用があった。また高齢者支援課からの紹介により、大阪高速鉄道株式会社と協力し「大阪モノレールつながりフェスタ」の認知症サポーター紹介ブースに図書を提供した。職員研修として、26 年度に引きつづき「認知症サポーター養成講座」を受講した。

図書館として今後も高齢化社会に対応し、状況に応じたきめ細やかなサービスをおこなっていく。

◆ブックスタート事業「えほんはじめまして」

子育て・子育て応援事業の一環として、図書館と健康増進課、豊中子ども文庫連絡会、おはなしボランティアポケットが連携・協働し、4 か月児健康診査を機会に市内のすべての赤ちゃんのすこやかな成長を願って絵本を手渡すとともに待ち時間にスタッフが言葉がけや読み聞かせをしている。絵本を配布して 5 年目となる平成 28 年 2 月、3 冊のプレゼント絵本のうち 1 タイトルを入れ替えた。またこの事業は、母語が外国語の人や障害のある人に図書館サービスを案内する機会ともなっている。「広報とよなか」10 月号に事業の特集記事が掲載され、地域で子育てを応援していることを広く PR することができた。また先進事例として「NPOブックスタート」の Web サイトでも紹介されており、28 年 1 月には尾道市の視察を受け入れた。

この事業に関わるスタッフの連携をより円滑なものにするため、27 年度は 2 回のスタッフミーティングと研修をおこない、事業への認識を深めた。

赤ちゃんを対象にしたおはなし会への参加など、新たな図書館利用につながっている事業であるが、単に図書館の利用促進にとどまらず、様々な情報提供をすることによって、地域の子育て支援サービスと市民をつなぐ役割を果たしている。

◆行政へのサービスと連携

市職員対象におこなってきた「庁内仕事応援事業」が5年目をむかえ、サービス開始前に24件だったレファレンス依頼が平成27年度97件と増えた。庁内情報共有システム内の「庁内仕事応援サイト」は、27年度より図書館の単独運営となり、図書館から市職員への情報提供だけでなく、職員間での情報共有のツールとして活用され、市民サービス向上につながっている。

26年度「公立図書館における課題解決支援サービスに関する実態調査」（全国公共図書館協議会）で、積極的に課題解決支援サービスを実施している図書館として、全国7地区のうち近畿地区からは豊中市が選ばれた。

◆団体へのサービス

学校、放課後子どもクラブ、子ども園、幼稚園、保育所（園）、子ども文庫およびおはなしボランティアグループ、高齢者施設、障害者施設、読書会等の自主的な活動グループに資料の貸出などの支援をおこなっている。

<学校図書館>

平成27年度の小・中学校図書館への貸出冊数は61,072冊（継続貸出14,892冊を含む）。レファレンスを含めた学校への支援を継続している。

毎年2回、学校図書館と公共図書館司書との地域館交流会を実施している。千里エリアでは、学校所蔵の郷土資料のリスト作成に協力、地域の施設・資料紹介の地図を共同で作成した。高川エリアでは、学校図書館と協力して、高川図書館15周年を記念した展示をおこなった。また、「としょかん今年で70年！」記念パネル展では、市内全小中学校図書館に依頼し各校の紹介カードを展示した。



服部図書館での
「地域の学校図書館紹介カード」の展示

<学校図書館支援ライブラリー>

平成23年4月から庄内幸町図書館の子ども室を機能変更し、学校図書館の「読書」「学習・情報」「教員支援」の三つの機能のサポートを目的として運営している。

27年度は学校間物流を見直し、要望の多いパッキング資料3種（調べ学習パック／図鑑セット／百科事典）を迅速に提供できるようになった。また学校図書館に向けてアンケート調査を実施し、利用が集中する図鑑を買い足し、新規テーマも追加した。

指導主事の意見や教職員からの要望を参考に選書している教員向け資料は、27年度は186冊受入、1,240冊を所蔵（雑誌を除く）。1,945冊の貸出があった。

今後も学校図書館をサポートしながら、「学校図書館支援ライブラリー」のあり方を検討していく。

＜放課後こどもクラブ・幼稚園・保育所（園）等＞

小学生向けには、定評のある本・紙芝居等を職員が選定し、市内の小学校の放課後こどもクラブに貸出している。また、蛸池人権まちづくりセンター・豊中人権まちづくりセンターの児童館にも、要望に応じて行事に関連した資料の貸出等の支援をおこなっている。

未就学児向けには、幼稚園・保育所（園）・こども園・家庭保育所・認可外保育所に対して、教諭・保育士からの相談に応じ、資料を貸出している。また引き続き、こども園教諭・幼稚園教諭・保育園保育士向け絵本講座を開催した。平成27年度は初めて市内の未就学児対象施設すべてに案内を送付し、幅広い参加があった。



こども園教諭・幼稚園教諭・保育園保育士向け絵本講座

＜子ども文庫＞

平成27年4月現在、12の子ども文庫があり、「豊中子ども文庫連絡会（豊子連）」加入は10文庫。

それぞれの地域で子どもに本を手渡し、長年にわたって子どもの育ちを見守る活動が続けられている。子どもの身近な居場所として、また子どもをとりまく大人の交流の場として地域に根付いている。図書館からは文庫活動を支援するために、長期の団体貸出や必要なテーマの資料を提供している。

毎年、おはなしや手づくりあそびを楽しむ「子どもと本のまつり」と「子どもと本のつどい」を共催で実施している。「子どもと本のつどい」では、絵本作家のいしかわこうじさんのワークショップと児童文学作家の風野潮さんの講演会をおこなった。



いしかわこうじさんのワークショップ
“ペーパーわんこを作ろう！”

＜おはなしボランティア＞

多くのボランティアグループが、小学校・市立豊中病院・図書館など市内の様々な場所で活動している。子どもに対する読み聞かせのほか、ボランティアの輪を広げる講座などもおこなわれている。なお図書館主催のボランティア講座受講者によるグループ「おはなしボランティアポケット」には、平成27年度現在80名以上が所属している。図書館に関連する各グループの活動内容については「市民との取組み事業」（11ページ）を参照。

図書館ではボランティア活動に用いる絵本の貸出や資料相談をおこなっている。岡町図書館館外サービス室では27年度、ボランティア活動に使えるスペースを拡げ、絵本をテーマ別に並べるなどレイアウトを変更した。今後も新たに読み聞かせボランティアを始める人の支援・活動中の人の支援双方を継続していきたい。

◆動く図書館「とよ1ぶっくる」による巡回サービス

図書館から離れた地域の市民や図書館への来館が困難な子どもたちの通う施設に、マイクロバスを活用した図書館車により資料を届けている。平成 27 年度も前年度と同じく約 3,200 点の資料を乗せ、一般ステーション 18 ヶ所・10 施設を約 4 週間に 1 回の頻度で巡回した。(施設の詳細については 32 ページの施設案内参照)

動く図書館の年間貸出人数は 8,760 人(前年比 3%増)、貸出冊数は 64,372 冊(前年比 2.1%減)となっている。

こども園・保育所では、卒園児を対象に図書館職員によるおはなし会を 5 ヶ所でおこない、支援学校・児童発達支援センターでは、ボランティアグループによる「おはなし会がやってきた!」を 3 ヶ所で計 8 回実施、一般ステーションでもボランティアグループによるおはなし会を 1 ヶ所で開催した。

巡回を重ねることで、施設やステーション近隣の市民との関係が深まっている。今後も来館困難な市民への資料提供につとめていきたい。

◆図書室

いぶき図書室には約 7,400 冊の資料があり、週 2 回午後から開室している。また月 2 回ボランティアの協力を得ておはなし会を行っている。

豊島西小学校内のバス図書室には約 1,900 冊の資料があり、週 1 回午後開室している。当初は動く図書館車を活用していたが、平成 25 年から校舎内に移転した。いぶき図書室・バス図書室をあわせた 27 年度の個人貸出人数は 7,749 人、貸出冊数は、24,802 冊で、リクエストも含め横ばいであった。今後とも定期的な蔵書の入れ替えと利用促進につながる働きかけをおこなっていく。

◆資料の収集と保存

市内全館の資料の選書は、職員で構成する選書委員会が毎週おこなう。「豊中市立図書館資料収集方針」(図書館 Web サイトで公開)にもとづき、限られた予算のなかで、市民の要望及び社会の動向に配慮し、趣味・教養・調査研究・日常の生活や仕事に役立つ資料を収集している。平成 27 年度も引きつづき「暮らしの課題解決」支援サービスに関わる資料の整備に取り組んだ。市内 9 図書館を一つの図書館と考え、限られた資料を館間で循環するなど効果的に運用するように心がけている。

書庫スペースに限りのある中で、計画的な蔵書の構築および保存につとめていく。

◆人権・平和に関する取組み

市民向けの取組みとして、各種資料展示や講演会、パネル展を実施し、職員と市民がともに人権・平和について考える機会としている。

また、図書館の職員が人権について理解を深め、市民への啓発につなげるため、年3回の研修をおこなっている。

| 事業名 | 講師 |
|---|---------------------------------|
| 市民向け人権講演会・資料展示・パネル展 | |
| 講演会「身体でみる 食色触職」 | 国立民族学博物館准教授 広瀬浩二郎さん |
| 講演会「豊中に生まれ・育った手塚治虫と辰巳ヨシヒロ～二人の戦争体験～」 | 関西学院大学講師 能登宏之さん |
| 講演会「『破戒』に出てくる人々」 | 元教育次長・とよなか人権文化まちづくり協会副理事 桑高喜秋さん |
| 資料展示「戦争と平和」 (平和月間) 「人権関連」 (人権月間) | |
| パネル展示「『同対審答申』から50年、部落問題は今・・・」 (一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会協力) ユニセフ写真展「シリア難民の子どもたち」(公民館との共催) | |
| 職員研修 | |
| 「図書館における人権問題資料について」 | 図書館職員 |
| 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する豊中市職員対応要領」 | 障害福祉課職員 |
| 人権啓発DVD「調べられた土地 避けられた地域」の視聴とグループ討議 | |

◆障害者サービス

身体上の都合で来館できない市民に、郵送・宅配により資料を貸出している。

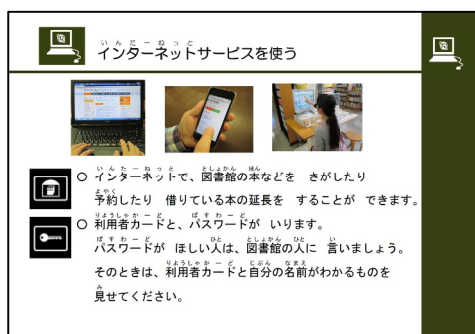
視覚に障害のある人には、録音図書(音訳図書やデイジー図書^{*1})・点訳図書の収集・貸出、対面朗読を実施。岡町・庄内・千里・野畑・蛍池図書館には、拡大読書器を設置するとともに、大活字本を全館で提供している。耳の不自由な人には、筆談等による対応のほか、補聴器用の磁気ループ^{*2}を千里・蛍池図書館に設置している。

録音図書、点訳図書の作成や対面朗読サービスの提供はボランティアグループの協力によりおこなっており、「音訳ボランティアフォローアップ研修講座」を年2回実施している。

平成 27 年度はデイジー図書に続き、点訳図書もサピエ図書館*3 への登録を開始し、利用が全国に広がった。5 月には、すべての人にわかりやすい案内をめざした「ようこそ、図書館へ（絵で見てわかる利用案内）」を作成し、公開した。また、視覚に障害のある子どもが在籍する学校図書館に対して、点訳図書や他機関を紹介するなど、情報提供をおこなうことで読書の幅が広がり、活発な読書活動につながった。

障害者サービスへのニーズの多様化が進むなか、情報格差を解消するために、マルチメディアデイジー図書など新たな媒体資料の提供や、関係機関、近隣の自治体、ボランティアグループ等とさらなる連携・協力を目指していきたい。

- *1 デイジー図書＝音声情報を圧縮して記録した CD
- *2 磁気ループ＝マイクを通した明瞭な音声を聞くためのシステム
- *3 サピエ図書館＝点字図書や録音図書の全国最大の書誌データベース（約 89 万件）



絵で見てわかる利用案内「ようこそ、図書館へ」



マルチメディアデイジー

◆研修

平成27年度は、図書館専門研修として、学校図書館との連携を意識した研修のほか、全国の先進事例および業務に関係の深い社会動向を学ぶことにつとめた。今後の図書館運営の中核を担う人材の育成をめざす「図書館司書専門講座」等を受講した職員から全職員へ報告をおこない、情報共有とともに、業務への還元、研修に対する意識向上をはかった。

一般研修として、「接遇振返り研修」では、講師による掲示物や接遇態度について評価・指導を受けた。また、政策課題をテーマとした庁内研修など幅広く受講した。

「暮らしの課題解決」支援サービスに関連したテーマについてはそれぞれの課題に即した研修に参加している。「ビジネス支援」に関しては連続講座の「地域経済コンシェルジュ養成研修」を受講した。

28年施行の「障害者差別解消法」に向けての研修参加をきっかけに市民団体と連携し、さわる絵本をはじめとした障害者サービス資料の展示会を共催で企画立案し開催に向けて準備をすすめた。「児童文化と子どもの理解」「レファレンス」「デジタル資料やデータの活用」などのテーマについても、継続的に研修に取り組んでいる。

職員の多様な雇用形態を踏まえて、様々な機会を捉え、職員一人ひとりのキャリア形成を意識した研修が課題である。

職員が受講した主な研修（1名での参加から、職場として企画した多人数の研修まで）

| 専門研修 | 一般研修 |
|--|--|
| 公共図書館・学校図書館対象交流研修 | 情報セキュリティeラーニング |
| 平成27年度図書館司書専門講座 ～国立教育政策研究所社会教育実践研究センター | 「接遇振返り研修」事前研修・実施研修 |
| 平成27年度大阪府図書館司書セミナー 6回 「院内学級児童へのサービスについて」等 | 平成27年度課題研修「体験研修～市民の立場に立ったサポートについて考える～」 |
| 平成27年度大阪公共図書館参考業務実務研修 基本・郷土資料・ビジネス | 平成27年度課題研修 「障害当事者から学ぶ人権と接遇」 |
| 2015年度JLA中堅職員ステップアップ研修 | 問題解決型メンタルヘルス対応セミナー研修 |
| 太子連児童文化講座 「子どもと本を書き終えて」等 | トワイライトセミナー「もう人材育成で悩まない」 |
| ブックスタートスタッフ研修講演会 「乳幼児の発達における絵本」 | 人権研修主任推進員・推進員等合同研修 |
| 平成27年度図書館地区別研修（近畿地区）「図書館の連携・協力がつなげる図書館つなげる司書」等 | 2年目職員研修「ボランティア体験研修」 |
| 子どもの読書推進活動支援員養成講座 | 市民自治フォーラム |
| 公共図書館セミナー2016 関西 「知の蓄積と想像からなる未来の図書館」 | 平成27年度コンプライアンス研修 |
| 大阪公共図書館協会研修会 「国立国会図書館サーチとWebAPI」等 | 図書館全体研修①「市民協働について」 ②「障害者差別解消法について」 |
| 平成27年度近畿公共図書館協議会研究集会（兼児童奉仕部門研究集会）「電子書籍の今、これから」 | 認知症サポーター養成講座 |
| 平成27年度レファレンスサービス研修 —経済社会情報を中心に— | タイムマネジメント研修 |
| 平成27年度障害者サービス担当者向け講座 （共催：日本図書館協会・国会図書館） | 管理監督職員研修「ハラスメント防止研修」 |
| 大阪子ども読書活動推進ネットワークフォーラム 事業「子ども読書活動推進リーダー研修」 | 総合計画 職員ワークショップ |
| 第63回大阪公共図書館大会 「高齢化社会の中の図書館」 | とよなか企業・チャレンジセンター経営セミナー 「成果を上げる『まちゼミ』のポイント！」 |
| 「『知』の活用としての貴重資料」 | 情報セキュリティ研修 |
| 「歴史的典籍オープンデータワークショップ～古典籍を使って何が出来るか！じんもんそん2015」 | 「障害者差別解消法及び職員対応要領について」 |
| 日本図書館協会差別解消法セミナー 他 | 新任課長級研修 他 |
| 計：60講座 110人参加 | 計：23講座 276人参加 |